

茶碗で北米に「和」の生活を

南カリフォルニア
南加岐卓県人会100周年からの風

8

私の父は1934年、日本の陶器を世界に紹介してゆく夢を志し、陶器専門の輸出商社を起業しました。

太平洋戦争後、多治見市で事業を再開した父の元で私は高校生の頃から、当時パソコンはもちろん、電卓も無い時代に算盤（そろばん）を片手に商売を手伝ったことを覚えています。\$1・00は360円でした。

名古屋の大学を卒業後、父の会社で働くようになった私は、営業マンとして、イラン、サウジアラビア等中東の国々へ一年のうち半分は出張しておりました。しかし、1979年、イラン・イラク戦争の勃発と共に当時主力マーケットと

していたイラン貿易が完全にストップしてしまい、会社としても新市場を開拓せねばならなくなりました。こうして私は1981年、意を決してロサンゼルスにやってきました。為替レートは、¥235＝\$1・00 でした。

1987年、ロサンゼルスに「うつわの館」一号店を開店して以来、出店を重ね、ピーク時にはアメリカに12店舗、カナダに7店舗を展開しました。しかし右肩上がりの成長も2001

年「9・11」以後、業績は急激に悪化し、競争も激化してきた事から、不採算店の閉鎖、リストラの徹底を余儀なくされました。

そうした状況下において、中国製和食器の台頭と、日本の食器メーカーの減少という現実に対して、またわが社にとって、大きなマーケットである北米の日本食レストランも、演歌が流れる「日本食堂」から、ジャズのBGMが流れるフュージョン系、Japanese Restaurantまで、多様化したニーズに適切に対応すべく努力しています。

私は、アメリカ進出以来、「和食器を通して、和の文化を紹介する」をコンセプトとして事業展開をしてまいりました。

そして、北米におけるわが茶碗（わん）屋人生も30年を経過し、これからはアメリカで育った次のジェネレーションがJAPANESEに「和」のライフスタイルを生活に組み込んでゆく工夫をしながら事業を発展させてゆくのを見守ってゆこうと思いません。今日\$1・00は80円です。（文・二村真次）

にむら・しんじ TAJI



MI(U.S.A.), INC. 会長。1941年、名古屋生まれ。45年多治見市に移住、小学校、中学校時代を過ごす。名古屋大学を卒業後、多治見陶器株式会社に入社。1981年渡米、TAJIMI(U.S.A.), INC. を設立、現在に至る。

二村真次さんが経営する「うつわの館」



岐阜新聞130年 ◆ ふるさと再発見シリーズ